

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目（該当する分野、種目を選択してください。）

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

申請区分（申請する区分を選択してください。）

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況（該当するものを選択してください。） ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制（該当するものを選択してください。）

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。（グレーアウトされます。）

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじんにほんさんきょくぎょうかい 公益社団法人日本三曲協会	団体ウェブサイトURL https://www.sankyoku.jp	
代表者職・氏名	会長 廣田鈍山（本名：廣田隼人）		
制作団体所在地	〒 107-0052	最寄り駅 (バス停)	赤坂駅
	東京都港区赤坂2丁目15-12 パール赤坂403		
電話番号	03-3585-9916		
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじんにほんさんきょくぎょうかい 公益社団法人日本三曲協会	団体ウェブサイトURL https://www.sankyoku.jp	
代表者職・氏名	会長 廣田鈍山（本名：廣田隼人）		
公演団体所在地	〒 107-0052	最寄り駅 (バス停)	赤坂駅
	東京都港区赤坂2丁目15-12 パール赤坂403		
制作団体 設立年月	平成22年8月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	[会長] 廣田鈍山 [副会長] 萩岡松韻/牧瀬裕理子 [常任理事] 青木鈴慕ほか6名 [理事] 阿部幸夫ほか14名 [監事] 鳥居名美野ほか2名	会員数4,176名（令和5年3月末現在）。当会の目的及び事業に賛同して入会した個人の三曲教授者又は演奏家で、当会に会費を納める者。入会には正会員1名の推薦を受けて理事会の承認を得ることが必要。（定款第5条及び第6条）	
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務 担当者を置く	本事業担当者名	神令
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	羽鳥省三（事務局）

制作団体沿革	昭和15年6月に、当時の芸能統制令によって日本音楽三曲の各流派の教授者・演奏者等を糾合して結成された「大日本三曲協会」を基盤として、同43年11月に公益法人として発足。 平成22年8月に公益社団法人の認定を受け、現在にいたる。			
学校等における公演実績	<p>【令和元年度】</p> <p>①本事業による巡回公演：13公演 ②東京都主催事業による学校公演：4公演 ③芸団協（公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会）受託事業による「キッズ伝統芸能体験」（子供を対象として第7クラス、尺八2クラス、それぞれ16回のお稽古の後、合同で成果発表会。参加児童・生徒数合計117名</p> <p>【令和2年度】</p> <p>①本事業による巡回公演：5公演 ②東京都主催事業による学校公演：4公演 ③芸団協（公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会）受託事業による「キッズ伝統芸能体験」（子供を対象として第4クラス、尺八2クラス、それぞれ16回のお稽古の後、合同で成果発表会。参加児童・生徒数合計47名</p> <p>【令和3年度】</p> <p>①本事業による巡回公演：8公演 ②東京都主催事業による学校公演：4公演 ③芸団協（公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会）受託事業による「キッズ伝統芸能体験」（子供を対象として第4クラス、尺八2クラス、それぞれ16回のお稽古の後、合同で成果発表会。参加児童・生徒数合計55名</p> <p>【令和4年度】</p> <p>①本事業による巡回公演：9公演 ②東京都主催事業による学校公演：5公演 ③芸団協（公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会）受託事業による「キッズ伝統芸能体験」（子供を対象として第6クラス、尺八2クラス、それぞれ16回のお稽古の後、合同で成果発表会。参加児童・生徒数合計65名</p> <p>【令和5年度】</p> <p>①本事業による巡回公演：8公演 ②東京都主催事業による学校公演：5公演 ③芸団協（公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会）受託事業による「キッズ伝統芸能体験」（子供を対象として第8クラス、尺八2クラス、それぞれ16回のお稽古の後、合同で成果発表会。参加児童・生徒数合計106名</p>			
特別支援学校等における公演実績	平成25年度：茨城県立土浦特別支援学校 平成26年度：富山県立高岡支援学校、福島県立笹生養護学校 平成27年度：長崎県立島原特別支援学校 令和3年度：長崎県立盲学校 令和4年度：長崎県立佐世保特別支援学校、東京都立花畑学園(東京都主催事業) 令和5年度：新潟県月ヶ岡特別支援学校、東京都立足立特別支援学校(東京都主催事業) ワークショップ・鑑賞公演を実施(ワークショップは実施校担当教員と相談により実施)			
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有		
	※公開資料有の場合URL	三曲協会学校公演用 - YouTube		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	無	
		PW:	無	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		前日仕込み所要時間			時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	10時	10時～12時30分	13時～15時	10分	90分	16時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	22日	21日	19日	22日	
	11月	12月	1月	計		
	20日	17日	21日	162日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安	1コマ40名程度までが望ましいが要望に対応		
			鑑賞人数目安	人数制限なし		
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出やがわかる写真) ※採択決定後、採択団体へ図面等詳細の提出をお願いします。						
	多目的室での鑑賞会		体育館での鑑賞会			
						
	鑑賞会での楽器説明		鑑賞会での休憩時間の触れ合い			

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益社団法人日本三曲協会】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	和楽器の魅力		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>以下の演目を演奏します。</p> <p>【A】 箏と三絃の古典曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱を伴う箏と三味線による古典曲 ・歌唱を伴う箏と三味線に尺八も加わった古典曲（三曲合奏） <p>【B】 尺八の古典曲</p> <p>【C】 普段音楽科の授業で馴染みのある曲。児童生徒の合唱との共演も含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領で歌唱教材及び鑑賞教材として取り上げられている曲 ・教科書に掲載されている曲 ・実施校の校歌 <p>☆実施校と具体的に相談の上、要望に合わせて構成します。 (各グループ【A】【B】【C】の候補曲名は、演目概要欄に記載)</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者	許諾確認状況
演目概要	<p>各グループの候補曲</p> <p>【A】：「六段の調」「八千代獅子」「千鳥の曲」「須磨の嵐」「松竹梅」「根曳の松」「春の海」「瀬音」「ひぐらし」等</p> <p>【B】：「鹿の遠音」「鶴の巢籠」等</p> <p>【C】：「さくらさくら」「ピリブ」「越天楽今様」「かごめかごめ」等、実施校の校歌（担当者が編集）</p> <p>「生田流箏曲」「山田流箏曲」「尺八楽」の古典曲を中心としながら、児童・生徒に馴染みのある曲等も各実施校と相談の上で適宜加えて演奏する予定です。演奏形態も、「独奏」「合奏」「三曲合奏」と当会ならではの多様なアンサンブルを紹介します。</p>		
演目選択理由	<p>和楽器の魅力は、1つにはその音色の豊かさが挙げられます。そして、箏・三味線・尺八共に音色を生かした様々な「奏法」があり、各楽器を特徴付けています。</p> <p>鑑賞曲は、古典曲の他、特に「奏法」を効果的に用いていて、楽器と音楽の特徴をつかみやすく児童・生徒がイメージを捉えやすい作品を選曲し、初めて鑑賞する上で親しみを感じやすい工夫をしています。</p>		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>本公演実施前に、児童・生徒と和楽器の表現活動について交流を図ります。本公演では、事前ワークショップで取り上げた曲や校歌等を演奏します。ワークショップ及び公演終了後に児童・生徒とふれあえる時間を設け、三曲や演奏者に関する素朴な疑問について質疑応答の時間を取るなど直接のふれあいができる場を設定します。ワークショップでの児童・生徒の発達段階、実態に合わせ、合唱等（器楽合奏も可能）での共演が可能です。</p>		
出演者	<p>別紙に「出演者一覧」を添付します。</p> <p>本事業の実施場所及び実施時期、期間により、他の出演者を適宜選抜することをご了承ください。</p> <p>演奏者はいずれも各流派の家元の監督・指導を受ける確かな日本伝統音楽の継承者で、年齢層は児童・生徒の年代に近い若手からベテランまで幅広い人材を登用することにより、様々な世代に受け継がれている伝統音楽の現状を御覧いただきます。</p>		
本公演従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む	<p>出演者※： 9 名 ※出演者について</p> <p>内部スタッフ(監修)： 1 名 ファシリテーター</p> <p>部委託(運営スタッフ) 4 名 が出演者を兼ねる場合は8名になります。</p> <p>合計： 14 名</p>	運搬	<p>積載量： t</p> <p>車長： ワンボックスタイプ普通乗用車</p> <p>台数： 4台</p>

リンク先	No.2				
	【公演団体名 公益社団法人 日本三曲協会】				
出演候補者	生田流	生田流	生田流	山田流	尺八
	喜嶋 更	高橋 操花	外山 香	伊藤 ちひろ	青木 滉一郎
	中小路 奈都子	花岡 操聖	小林 道恵	船木 伊十矢	遠藤 鈴匠
	中地 麻紀	福田 操明櫻	山野 安珠美	横山 伊綴流	黒田 鈴尊
	松野 孝子	大嶋 敦子	小林 真由子	朝香 麻美子	小林 鈴純
	長塚 梨秋	中村 思乃	宮本 歌穂湖	山下 紗綾	牧原 筋童
	日原 藤花維柯	藤井 妙子	塚本 歌澄徳	設楽 千聡代	神 令
	石橋 清宗	望月 雅子	野村 幹人	樋口 千清代	芦垣 皋盟
	富志乃 清愁	新井 智恵	佐野 亜子	小林 名与郁	清野 樹盟
	青野 雅楽浪	池田 和花奈	水野 優子	山下 名緒野	長須 佳盟
	石井 雅楽帆	大野 奈穂	榎 阿礼	市川 法慧能	本間 海盟
	板橋 雅楽美美	青木 礼子	稲垣 佳代子	金澤 法花能	飯田 帆盟
	井上 雅香夕	上條 妙子	上田 麻里名	北村 紗海明能	鈴木 鼎童
	内島 雅千穂	小畔 香子	樹本 佳音里	佐久間 杜和能	佐田 奏童
	岡戸 雅実歌	瀧口 舞衣子	野村 倫子	佐々木 千香能	大山 貴善
	奥田 雅楽之一	多々良 香保里	野村 哲子	田中 奈央一	川崎 貴久
	神立 雅美順	野澤 潤子	高島 一郎	中 彩香能	安島 瑤山
	川村 雅楽葵代	長谷川 愛子	野口 悦子	武田 博華	井本 蝶山
	北川 雅楽乃	松本 史子	細川 真紀	森田 博代	川村 葵山
	黒川 雅瞳	村田 章子	岡崎 せい子	萩岡 信乃	菊地 河山
	合田 雅楽葉	山形 光	内田 道子	萩岡 松柯	櫻井 咲山
	佐々井 雅矢映	吉永 真奈	池田 啓子	萩岡 由子	柴 香山
	竹村 雅萌	岡崎 敏優	木村 倫子	渡辺 岡華	武田 旺山
	田邊 雅震翠	亀川 敏里	田村 雅釉	新井 来由賀	田辺 恵山
	鳥光 雅楽綺	大学 敏悠	尾上 雅楽璃葉	杉本 禧代賀	友常 毘山
	中島 雅楽彩智	野口 敏翠	水野 雅千穂	富田 華鳳賀	樋口 景山
	中島 雅裕	齊藤 文香代妃	金子 操由寛	渡辺 鳳代賀	舛田 路山
	新見 雅晃	佐藤 文岳晶	久東 操恵壽	奥山 益勢	長谷川 将山
	野沢 雅世	山元 文志生	白橋 操悠	城ヶ崎 明雪勢	設楽 瞬山
	久松 雅紗恵	久野木 史恵	井原 潤子	利根川 倫勢	福田 智久山
平野 雅寿草	神永 陽韻	和久 文子	長岡 園美咲	石垣 征山	
宮後 雅紫都	吉原 一智枝	松村 エリナ	新保 真佐江	吉越 瑛山	
村松 雅奈	岸村 一智千	竹澤 悦子	大谷 真為	瀧北 榮山	
山水 雅楓	木内 麻葉	丸田 美紀	渡理 潤子	中島 孔山	
吉川 雅楽巴里	阿部 大介	井関 一博	小室 旺士	田嶋 謙一	
山本 雅楽邦	阿部 勇介		小間 夕起子	金子 朋沐枝	
			花岡 千日賀		

A区分・C区分共通

No.3(実演芸術)

【公演団体名 公益社団法人日本三曲協会】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1コマ40名程度（3コマまで実施可能） 要望に可能な限り対応します
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>標準45～50分（実施校の授業に対応）</p> <p>1.事前準備 参加する児童・生徒人数に合わせて楽器（箏）を実施会場に運搬し設置の上、指導者が演奏できる状態に調弦をします。 （箏：長さ1.8m、重さ約10kg程度）</p> <p>2.WS</p> <p>①楽器の説明 箏の楽器の歴史や名称などについて紹介します。</p> <p>②演奏方法の説明 箏を弾く際の座り方、お辞儀の仕方をはじめとした作法について指導します。 体験時に使用する箏爪についての説明、つけ方、弾き方について説明します。</p> <p>③模範演奏 予定しているテキストを使用し、講師が曲の説明なども交えながら一通り演奏します。</p> <p>④体験 クラス単位（人数によっては交代制）で1人1面を使用して体験します。 生徒の年齢・経験等に合わせて、進めていきます。 最後は講師と合奏することで、和楽器の奥深さを実感していただけるかと思えます。</p> <p>⑤質疑応答 和楽器の歴史や奏法など、質疑応答の時間を設けます。</p> <p>3.片付け WS終了後はすべて消毒し、収納、運搬。</p> 		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>和楽器の実技指導は、2002年以降学習指導要領に明記されているにもかかわらず、その内容は決して十分とは言えない現状があります。ワークショップでは、児童・生徒の発達段階、実態に合わせ、参加可能な教材を選定して実施します。教材の楽曲の一部ないし全曲を講師とともに演奏します。表現活動と鑑賞活動の往還により、和楽器とその音楽への理解が一層深まるものと考えます。</p>		
<p>その他ワークショップ に関する特記事項等</p>	<p>作今の生活習慣により正座ができない(長時間は難しい)児童・生徒が増えており、正座による身体への負担から体験に集中できないということがないよう、座奏(正座をして演奏するスタイル)ではなく、立奏(椅子に座って演奏するスタイル)での実施を基本とします。</p> <p>特別支援学校では、鑑賞会を中心として開催しますが、ワークショップについても実施校の担当教諭と相談の上、児童・生徒の実態に合わせて、可能な限りの取り組みを実施したいと考えています。</p> <p>過去の実施例としては、箏の演奏体験や盲学校の児童・生徒のために点字譜を作成しました。演奏体験に際しては、個々の心身の状況を事前に担当教諭と打合せすることにより、負担が大きくなりすぎないよう配慮し、児童・生徒にとって豊かな体験となるよう心がけます。</p>		

A区分・C区分共通

No.4 (実演芸術・メディア芸術 共通)

本事業への申請理由

【公演団体名 公益社団法人 日本三曲協会】

<p>本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>当協会は、公益社団法人に移行後、自主事業として小・中学校等からの要請に基づき、学校施設内における三曲演奏会や模範演奏、体験授業など、学校音楽における邦楽教育普及活動に取り組んでおり、東京都からの委託事業としても同様の学校派遣事業に取り組んでいます。</p> <p>これらの事業に対応するため、協会内に三曲の普及活動全般を検討・推進する部会を設け、個々の事業への対応は、運営委員会が推進する体制を構築しています。</p> <p>これまで実施している本事業のワークショップの運営に当たっては、指導方法についても児童生徒の水準（学年・経験等）に合わせた指導ができるよう「計画、実施、振り返り」を継続的に行い、スキルアップを図っています。</p> <p>和楽器の実技指導に当たっては、教育的効果を高めるために、箏・三味線・尺八のそれぞれについて、楽器の構造と取扱い方や作法から、ルーツと伝播の過程も含む歴史まで、和楽器に対しての総合的理解を深めることのできるよう、各年代に合わせた言葉を用いるなど工夫して、わかりやすい説明を行っています。</p> <p>当協会では本事業を平成25年度より受託していることから、全国をほぼ一巡している状況を鑑み、今後、以前に実施した地域については、学校側の要望を可能な限り取り入れた内容とすべく、柔軟に対応したいと考えています。</p> <p>また、日本の伝統音楽の継承も大きな課題と認識し、限られた回数の中で日本古来の楽器の良さを子供達に伝えていきたいと考えます。</p> <p>なお、コロナ禍を経て、基本的な感染予防対策を実施しています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>当協会は、過去に文化庁主催「子どものための優れた舞台芸術体験事業」等において、全国各地の学校において鑑賞教室、ワークショップなどを経験した演奏家を多数擁しています。また、各地方自治体や芸団協（公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会）などの業界団体の委託により、大規模公演から小規模公演まで、様々な会場でワークショップ及び公演を行ってきました。その実績に対して、各関係機関から高い評価を得ています。さらに本事業も、平成25年度より毎年実施しており、それらの経験を踏まえた、より効率的な事業運営が可能であると考えております。</p> <p>具体的には、以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実施校における過去の事業実績の結果を調査し、対象児童・生徒の年齢、地域の特色などに配慮し、過去の公演と演目等が重複しないようにする。 (2) 同じ演奏曲目でも異なる演奏者が演奏することによる新たな発見、体験を導く。 (3) 実施校と事前に打ち合わせを行い、実施校の特色、教育的配慮について確認するとともに、要望等があれば可能な限り取り入れるようにする。 (4) 指導者については、協会内の他の事業（子供演奏会、キッズ伝統芸能体験等）も多く経験させることにより、児童とのコミュニケーション能力等についても向上させる。 (5) 公演後のアフターフォローを可能にするため、問い合わせ連絡窓口を明確にし、速やかな応答体制を構築する。
---	--